

言語文化教育研究学会 第8回年次大会プログラム (オンライン開催)

水色とオレンジ色で表示している枠には、手話通訳を配置します。オレンジ色の枠は、大会に参加申し込みをしてくださった方への事前の希望調査をもとに通訳配置を決定したものとなっています。

一日目：2022年3月5日(土)

8:50-9:00	開会式 (会議室 1)	談話室
9:00-10:30	ワークショップ (会議室 1)	8:00~18:50
委員企画ワークショップ「無言語コミュニケーションワークショップ」 40分×2回開催 講師：尾中友哉 (NPO 法人 Silent Voice), 岡松有香 (NPO 法人 Silent Voice), 高橋緑 (NPO 法人 Silent Voice)		大会期間中、参加の方法やスケジュール、学会についてご不明な点などがありましたら、こちらにお越しください。スタッフが対応いたします。
10:40-12:10	招待講演 (会議室 1)	
招待講演「宮窪手話を通して異文化共生を考えるー宮窪の聴者3人の語りを通してー」 講師：矢野羽衣子 (関西学院大学手話言語研究センター)		
12:10-13:00	昼休み	
13:00-16:00	大会シンポジウム (会議室 1)	
大会シンポジウム「流暢な音声日本語話者像を超えて」 シンポジスト：松崎丈 (宮城教育大学), 岡典栄 (明晴学園), 中井好男 (大阪大学) 司会：古屋憲章 (山梨学院大学)		
16:10-17:10	ワークショップ (会議室 1)	
委員企画ワークショップ「日本手話やろう文化についての体験講座」 講師：前川和美 (関西学院大学手話言語研究センター), 下谷奈津子 (関西学院大学手話言語研究センター)		

17:20-18:50 フォーラム						談話室
会議室 1	会議室 2	会議室 3	会議室 4	会議室 5	会議室 6	
<p>「江副式教授法」はろう教育でどのように活用されたのか一開発者の江副隆秀氏を招いて一</p> <p>(吉開章：電通ダイバーシティ・ラボ，江副隆秀：新宿日本語学校，木島照夫：難聴児支援教材研究会)</p>	<p>「みんな」を問い直す一ながさき・愛の映画祭の試み一</p> <p>※発表者によるUDトーク設置あり</p> <p>(宮崎聖乃：ヒューマンライブラリーNagasaki，儀間由里香：ながさき・愛の映画祭実行委員会，宮崎聡子：関西学院大学)</p>	<p>演劇を導入した言語文化教育における「できない」が生み出す可能性と創造性，包摂</p> <p>(飛田勘文：芸術文化観光専門職大学，中山由佳：山梨学院大学，西村由美：関西学院大学)</p>	<p>インクルーシブな言語学習環境をめざして言語学習者とともに研究のあり方を考える一言語学習者のナラティブをどのように分析し，どのように活かすか一</p> <p>(池谷尚美：横浜市立大学，古屋憲章：山梨学院大学，山崎直樹：関西大学，植村麻紀子：神田外語大学，中川正臣：城西国際大学)</p>	<p>質的研究のアンラーニングー「私にとっての質的研究」へー</p> <p>(中山亜紀子：広島大学，八木真奈美：駿河台大学，中井好男：大阪大学)</p>	<p>日本語教師の対話と省察を促すケース教材の開発ー自分の軸を作る教師研修の可能性一</p> <p>(中尾有岐：国際交流基金関西国際センター，牛窪隆太：東洋大学，古屋憲章：山梨学院大学，有森丈太郎：トロント大学，大隅紀子：NPO 法人 YYJ・ゆるくてやさしい日本語のなかまたち，瀬尾匡輝：茨城大学，瀬尾悠希子：東京大学，檜原ゆかり：イラストレーター・デザイナー)</p>	

20:00-21:00 アフターセッション（会議室1）

※こちらは、オンラインでの懇親会です。大会参加者の方は、「事前申し込みなし」「参加費無料」でご参加いただけます。Zoomのブレイクアウトセッション機能を利用して、それぞれのルームで交流をします。今大会のそれぞれの発表内容について、大会テーマ全般について、言語文化教育について、その他みなさまの興味・関心について、自由に交流していただければと思います。

二日目：2022年3月6日（日）

10:00-11:00 ポスター発表(会議室1)				談話室
1	2	3	4	9:30～19:30
教育におけるケアの意味—分野の異なる教師のインクルーシブ教育を巡る対話を通じて— (東山晃：神奈川県立障害児学校教職員組合，佐藤正則：山野美容芸術短期大学)	マジョリティの特権に目を向けた教育実践—新たなヒューマンライブラリーへの展望— (福村真紀子：茨城大学，中川正臣：城西国際大学，本間祥子：千葉大学，吉田孝子：国際基督教大学，松本美香子：白百合女子大学，李思雨：ISI日本語学校)	地域方言に対する日本語学習者の意識—「外国人が方言を学ぶこと」に対する日本語母語話者の意識と比較して— (高村めぐみ：愛知大学)	国を越えた移動がもたらす困難や葛藤をプラスに変えるためには何が必要か—幼少期に中国と日本を往還した若者を対象に— (滕越：東京大学)	
5	6	7	8	
多様な学び方を支える多読授業の検討—ユニバーサルデザインの視点から— (横山りえこ：早稲田大学)	日本人の多様性から多文化共生について考える日本語サポーター養成講座 (横田隆志：北陸大学)	日本企業就業初期の外国人社員による社会言語規範・社会文化規範の意味付け過程—複線径路等至性アプローチによる考察— (武田誠：早稲田大学)	言語的正統性と新自由主義的主観性から考察する外国につながる高校生の大学進学 (吉田孝子：国際基督教大学)	

11:10-12:40 口頭発表 40分				談話室
会議室 1	会議室 2	会議室 3	会議室 4	
<p>①11:10-11:50 誰のための、何へのインクルージョンなのか？—聴者、難聴者、ろう者のインクルージョン教育が持つ排他性—</p> <p>(柳井優哉：シドニー工科大学)</p>	<p>①11:10-11:50 コーダの手話継承</p> <p>(安東明珠花：東京大学, 中井好男：大阪大学, 中島武史：大阪府立だいせん聴覚高等支援学校/関西学院大学, 中津真美：東京大学)</p>	<p>①11:10-11:50 言語教育実践におけるビジュアル・ナラティブの応用可能性—三項関係ナラティブモデルによって立ち現れる留学生の「自己」についての語りの分析から—</p> <p>(水戸貴久：別府溝部学園短期大学)</p>	<p>発表は中止となりました</p>	
<p>②12:00-12:40 手話教育における手話劇活動がもたらす、ろう文化に対する学習効果の一考察—日本手話受講学生の手話劇に見られるろう文化の分析—</p> <p>(平英司：関西学院大学, 前川和美：関西学院大学)</p>	<p>②12:00-12:40 推理作家・西村京太郎が描いた、ろう者とろう者を取り巻く状況の表象—『四つの終止符』(1964年)と『十津川警部, 沈黙の壁に挑む』(1994年)との比較—</p> <p>(岡田祥平：新潟大学)</p>	<p>②12:00-12:40 インクルーシブ・デザインをテーマにした産学連携プロジェクトに関する実践研究—参加者の意識変容のプロセスを中心に—</p> <p>(三代純平：武蔵野美術大学, 米徳信一：武蔵野美術大学, 神吉宇一：武蔵野大学)</p>	<p>②12:00-12:40 学習背景が異なる日本語学習者が集まる自己主導型学習のワークショップはどのように進行したのか</p> <p>(瀬井陽子：大阪大学)</p>	
12:40-13:40 昼休み				

13:40-16:10 口頭発表 30分				談話室
会議室 1	会議室 2	会議室 3	会議室 4	
<p>①13:40-14:10 ポストマルチリンガリズムから見た日本語教育と方言, そして, 多言語共生 (小島卓也:長崎大学)</p>	<p>①13:40-14:10 散住地域に暮らす外国人住民のライフキャリア意識とことばの支援の課題 (山本晋也:徳山大学, 家根橋伸子:東亜大学)</p>	<p>①13:40-14:10 ゼミ的コミュニティ形成と責任の再考—言語人類学系ゼミを事例に— (青山俊之:筑波大学, 井出里咲子:筑波大学)</p>	<p>①13:40-14:10 日本語教師研究としての「言語ヒストリー (LH)」の実践 (上田和子:武庫川女子大学, 小林浩明:北九州市立大学, 和泉元千春:奈良教育大学, 野畑理佳:武庫川女子大学)</p>	
<p>②14:20-14:50 外務大臣定例記者会見における質問場面の会話分析—記者の非母語話者性を巡る一連の相互行為— (加藤林太郎:国際医療福祉大学, 勝部三奈子:大阪大学, 久次優子:大阪大学, 内藤香月:フリーランス, 宮本敬太:立命館大学, 長田梨菜:早稲田大学, 横内美保子:信州大学, 原千晶:早稲田大学)</p>	<p>②14:20-14:50 オンラインによる海外研修で参加者は現地の学生と関係性を築くことができるのか?—ベトナムと日本の大学間で行った COIL 型の海外研修プログラムの実践から— (瀬尾匡輝:茨城大学, 小西達也:ハイフォン大学, グエン・ティ・タイン・ヴァン:ハイフォン大学, ゴ・ティ・トゥ・チャン:ハイフォン大学)</p>	<p>②14:20-14:50 書記言語として使用される医療現場の業界用語の機能および業務上の役割 (ポポヴァ・エカテリーナ:大阪大学)</p>	<p>②14:20-14:50 女性日本語教育者の対話を通じた子育てや仕事の経験の捉え直し (菅智穂:立命館大学, 杉本香:大阪大谷大学, 大河内瞳:大阪樟蔭女子大学)</p>	
<p>③15:00-15:30 公的議論における「日本語学校の非常勤講師」—議事録の中の成員カテゴリー化実践— (勝部三奈子:大阪大学)</p>	<p>発表は中止となりました</p>	<p>③15:00-15:30 初級日本語学習者の母語によるプライベート・スピーチ技能実習生の日本語教室における事例— (加藤伸彦:東海大学)</p>	<p>③15:00-15:30 「教養としての日本語教育学」担当教員の意味世界 (志賀玲子:東京経済大学)</p>	

<p>④15:40-16:10 求人情報に見る日本語教師の属性—多様性の議論に向けた基礎調査の報告— (牛窪隆太：東洋大学，秋田美帆：関西学院大学，徳田淳子：東京中央日本語学院)</p>	<p>④15:40-16:10 多文化共生社会を目指した複言語複文化脱出ゲームの開発 (杉本香：大阪大谷大学，樋口尊子：大阪大谷大学)</p>				
<p>16:20-17:50 フォーラム</p>					<p>談話室</p>
<p>会議室 1</p>	<p>会議室 2</p>	<p>会議室 3</p>	<p>会議室 4</p>	<p>会議室 5</p>	<p>会議室 6</p>
<p>委員企画フォーラム「言語文化教育は、ろうコミュニティの「ALLY」になれるのか—日本語教育とやさしい日本語の視点から—」</p>	<p>ろう・難聴児者に対するこれからの英語教育の話をしよう</p>	<p>コミュニティにおいてディスアビリティをどうインクルージョンするか—「言語教育学系ゼミ」を出発点として考える—</p>	<p>多様な日本語教育現場から考える「市民リテラシー」</p>	<p>多様な留学生の包摂的キャリア支援を考える—周縁化とインターセクショナリティの観点から—</p>	<p>当事者としての支援員らの語りからつくる外国につながる子どもの学習支援—「クロスロード：外国につながる子どもの支援員編(仮)」の制作と実践—</p>
<p>鼎談者：吉開章（電通ダイバーシティ・ラボ），中島武史（大阪府立だいせん聴覚高等支援学校／関西学院大学手話言語研究センター），中井好男（大阪大学） モデレーター：古屋憲章（山梨学院大学）</p>	<p>（岡典栄：明晴学園，寺沢拓敬：関西学院大学，安東明珠花：東京大学，Martin Dale-Hench（マーティン・デイル・ヘンチ）：米国ギャロレット大学，富田望：米国フレミングハム州立大学，児玉英之：</p>	<p>（尹恵彦：関西大学，嶋津百代：関西大学，山内幸恵子：関西大学，福地麻里：関西大学，丸谷充伸：関西大学，潘寧楽：関西大学）</p>	<p>（芹川佳子：早稲田大学，奥村恵子：明治学院大学，齊藤真美：早稲田大学，中野玲子：すみだ日本語教育支援の会，山下千聖：早稲田大学）</p>	<p>（寅丸真澄：早稲田大学，佐藤正則：山野芸術短期大学，松本明香：東京立正短期大学，家根橋伸子：東亜大学，中本寧：なかさん本舗）</p>	<p>（松井かおり：朝日大学，石田喜美：横浜国立大学，半沢千絵美：横浜国立大学）</p>

	ゴールドマン・サックス)					
18:00-19:30	フォーラム（会議室1）					談話室
ALCE インクルージョン・ワーキング・グループ「言語文化教育研究学会のインクルージョンを考えるー誰もが参加しやすい学会の実現に向けてー」 （古屋憲章：山梨学院大学，北出慶子：立命館大学，小西達也：ハイフォン大学，寅丸真澄：早稲田大学，中井好男：大阪大学，中川正臣：城西国際大学，本間祥子：千葉大学，南浦涼介：東京学芸大学，宮崎聖乃：ヒューマンライブラリーNagasaki）						

協賛団体 カシオ計算機 | グットハーモニー協同組合 | くろしお出版 | ココ出版 | スリーエーネットワーク | 大修館書店 | 筑摩書房 | 凡人社